

もみじ



県立広島病院 ☎082-254-1818 (代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号



理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

連携医院のご紹介

今回は、“至誠一貫”をモットーに、まごころを持って患者様に接しておられる安芸郡坂町の河原クリニックの河原 俊司 院長にお話を伺いました。



河原院長

医療法人 杏林堂 河原クリニック

〒731-4323
広島県安芸郡坂町横浜中央1-3-5
電話/082-820-1711
院長/河原 俊司
診療科目/内科・呼吸器内科・
放射線科・神経内科



○開業されてから今までのことを教えてください。

2000年12月に、幼少期を過ごした安芸郡坂町にて開業し、現在23年が経過しております。豪雨災害やCOVID-19などを経験し医療をめぐる様々な外的要因は時代とともに変わっております。特に坂町は、土砂災害で自宅を失った方、家族を亡くされた方、町内循環バスの減便、ATMが撤退した地区等、高齢者を支える基盤が脆弱な状況が続いています。今も焦燥感を抱えた方、雨が降ると不安が増強する方等、あらゆることが未だ試さ

れている状況です。こうした経験を踏まえ、地域の皆様に寄り添い日々診療しております。

○クリニックの特徴を教えてください。

CT等、自施設でできる検査を可能な限り行い、各種がんの早期発見に努めています。基幹病院で手術や化学療法、放射線治療を受けられた方々へ、精神的療法を含めた維持療法に力を注いでいます。また痛みや食欲不振などの苦痛症状の軽減や、生活習慣病のコントロール、各種ワクチン接種などの予防療法、地域学校医活動、産業医活動など幅広く行っています。高齢独居の患者様も多く、訪問看護ステーションのスタッフや、リハビリの方と情報を共有し日々の診療にあたっています。以前は、一家三世代を診察することも多かったのですが、最近では、子供さんが東京など遠方におられる方の今後の治療計画を立てる場合、患者様一人では判断ができず、民生委員さんにも協力を得てご家族とコンタクトを取り、情報共有や相談を行うケースが増加しています。

○毎日の診療で大切にされていることや、やりがいは？

医療従事者の言葉は、理解しづらいことがあるため、病状を間違えて理解されてしまうことがあります。間違ったままだと、徐々に信頼関係の構築が難しくなってきます。そのため、できるだけ平易な言葉を選択し、わかりやすく病状についてお伝えすることを心がけています。がん、心臓病、呼吸器疾患、消化器疾患、腎臓病、生活習慣病、うつ病、脳卒中、認知

症などを、同時にあるいは時を変え、繰り返し痛み、衰え、それでも神様からいただいた寿命が尽きるまで生きていかなければなりません。このような患者様に並走できるように、自己研鑽に努めております

○県病院はどんなところですか。

すぐ助けて頂いています。先日は喉頭蓋炎で、気管切開が必要な患者を診て頂きました。診療科にかかわらず紹介した患者様に対応していただき、誠にありがとうございます。今後とも何卒よろしくお願いたします。

○最近のトピックスについて

当クリニックは広島、呉両市の中間地点にあります。両市のベッドタウンの面が強い町ですが、フグ食中毒、マムシ咬傷、草刈り機での外傷、外傷性脾臓破裂などの都会では経験することの少ない疾患にも出会います。季節性の感染症や新興感染症に注意するよう患者様に啓蒙しワクチン接種を促し、町の医師として奮闘しております。



外観

【取材後記】
午後の診察開始する前に院長先生が丁寧に対応してくださいました。普段の診療で患者様の病気や症状と向き合っていて一緒に考えてくださっている姿が目につきました。

福寿



新春を迎え
謹んでお慶びを
申し上げます

新型コロナウイルス感染症が5類に移行して半年が経過しました。コロナ感染症は落ち着いていますが、昨年からインフルエンザの感染がかなりの拡がりを見せています。いづれにしても基本的な感染対策は、手洗いの励行とマスクの着用で、特に院内感染の発生を防ぐためにもその重要性は変わりません。これからの感染対策をしっかりと行いながら、地域の医療機関と連携し高度急性期医療を安全かつ適切に提供してまいります。

さて、2030年JR病院、中電病院そしてHIPARCとの統合により駅北に開設予定の新病院については、いま基本設計に取り掛かっているところですが、全国トップレベルの高水準かつ安全な医療を提供し、医療人材の育成、そして住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる広島県の実現に貢献できる病院を目指してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

最後に、皆さんにとりまして、今年一年がより一層充実した年となりますことを祈念しております。



令和六年元旦

県立広島病院 院長
板本 敏行

県立広島病院からのお知らせ

1月のがんサロン

開催日時 令和6年1月24日(水) 14:00～15:00
場所 新東棟2階 研修室及びオンライン
テーマ がんと上手につき合うために
～ガイドラインを活用しよう～
講師 がん専門医よろず相談所 / 児玉 哲郎 医師
対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族
(当院受診歴不問)
問合せ先 がん相談支援センター
☎082-256-3561



がん専門医よろず相談所

相談医 栃木県がんセンター名誉所長
児玉 哲郎 医師
日程 毎週 火曜日 13時～16時
方法 面談(予約制)
電話でお申し込みください
対象 がんと診断された方、ご家族
※当院を受診していない方も
利用できます

がん相談支援センター ☎082-256-3561
土・日・祝日を除く 9:00～17:00

第24回フォーラム 「医療の改善活動」



第24回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 広島が11月17日～18日の2日間、広島県医師会館で開催されました。大会期間中は512名の来場者があり、会場によっては立ち見が出るほど大盛況となりました。

また、大変多くの企業様にもご協賛をいただき大会を盛り上げていただきましたこと、さらには運営スタッフとしてご協力をいただきました皆様にもこの場をお借りしてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、今大会のテーマは「国際平和文化都市広島からのメッセージ～改善の歩みをとめない～」でございました。2020年から新型コロナウイルス感染症の流行などにより、医療提供体制がひっ迫するなど、医療現場を取り巻く環境は大きく変化をしております。こうした中、医療現場において改善活動が継続されてきた結果、24回目を迎えることができたこと、さらには、改善事例発表の演題数は119演題を数えるなど、まさに今大会のテーマのとおり全国の多くの病院が改善の歩みを止めることなく走り続けてきた結果と受け止めております。今後もこの歩みが止まることなく前に進んで行くことを確信した2日間となりました。

来年、この大会は松波総合病院が大会長となり、岐阜県で開催されます。次大会のテーマは働き方改革、経営、IT・AIなど様々な視点から改善を考えて新世代に繋げていくということから「Diversity2024-新世代の改善活動-」となっております。皆さんもぜひ、次大会にご参加いただきますようお願い申し上げます。



広島県医師会館の会場



別室のモニター会場



表彰式



第24回フォーラムの当院参加メンバー



第24回フォーラムのポスター

空の日プレミアムツアー

令和5年11月18日に広島西飛行場（広島ヘリポート）で『空の日プレミアムツアー』が開催されました。G7サミットでの広島ヘリポートの役割、当日の利用状況などの画像説明や、滑走路やエプロンなどを実際に見学し、各種施設を専任のガイドが解説するツアーです。

参加した子供たちはドクターカーロゴ入りのユニフォームを試着し、展示しているドクターカーとドクターヘリを間近に見ることが出来て大喜びでした。



ドクターカーとドクターヘリ



ドクターカーユニフォーム試着してドクターカーを見学

外科医の独り言...no.147

ー ヒートショック ー

この原稿を書いている現在は12月初旬ですが、11月になっても2日連続で夏日を記録していました。なんと107年ぶりの記録だったそうです。そしてやっと12月らしい寒さがやってきました。なんと宮島では今がちょうど紅葉の見頃だそうです。遅すぎますね。今年の秋は短く、というか秋があったのかどうかも定かでなく、残念ながら日本から四季が無くなってしまったかのようです。さらに今年の冬は暖冬になると予測されていますが、冬らしい寒い日も時々あるとのことで、自律神経の調節が上手くできなければ、激しい寒暖差に身体が参ってしまいそうです。

私が最初にヒートショックという言葉を目にしたのはもう30年以上も前です。血流が無くなった臓器の保護にヒートショックプロテインという蛋白が重要な役割を果たしているという研究があり、虚血だけでなく熱によるストレスからも細胞を守る蛋白質としても知られていました。そして最近、ヒートショックという言葉がこの寒い時期になるとテレビでよく取り上げられています。ヒートショックプロテインはヒートショックから守るプロテイン（蛋白質）なので、ヒートショック自体は良くない現象だというのは容易に想像できます。

ウィキペディアによると、ヒートショックとは急激な温度変化により身体が受ける影響のことであり、比較的暖かいリビングから寒い浴室、脱衣室、トイレなど、温度差の大きいところへ移動すると、身体が温度変化にさらされて血圧が急激に変化するため、脳卒中や心筋梗塞などを引き起こすリスクが高くなるということです。高血圧や動脈硬化の傾向がある人がその影響を受けやすく、なかでも高齢者は特に注意が必要です。

日本での入浴中の死亡者数は諸外国よりも多いと言われており、2019年には年間19,000人がヒートショックによる脳卒中や心筋梗塞で死

亡したと推計されています。あくまで推計ですが、令和3年の交通事故死者数が約2,600人ですから約7倍の多さということになります。確かに日本の木造家屋は断熱性に劣り、トイレや浴室は寒い北側に配置されていることが多いようです。確かに南側にはなく、わが家も西側に位置しています。温かいリビングから寒い浴室に入ると血管がキュッと締まって血圧が急激に上がり、湯船に入って温まると血管がダラーッと拡張して血圧は下がり、ひどい時には意識を失うことがあります。この急激な血圧の変動が原因で心筋梗塞や脳卒中を発症するリスクが高くなります。昔は風呂場が母屋ではなく離れにあり、いったん外に出てから風呂に入るという構造の家もありました。雪深い山あいの家ではヒートショックのリスクが高かったはずですが。人里離れた温泉宿で、酒を飲みながら雪が深々と降る露天風呂に入るという情景には憧れますが、高齢者の仲間入りをした私には自殺行為かもしれません。ヒートショックが待ち受けています。サウナに入って熱くなって汗をしっかりといたら水風呂に飛び込む、ヒートショックに脱水も加わってこれも間違いなく自殺行為です。

わが家でもヒートショックという言葉は1日数回、妻の口から出てきます。どこで仕入れた知識なのでしょう？おそらくテレビだとは思いますが、ヒートショックのことを医者の方よりもよく知っています。私の身体のことを思っ

て、対策もちゃんとしてくれています。脱衣所には電気ストーブを付け、風呂のふたは開けておいて湯気で浴室内の温度を上げてあります。ありがたい心遣いであり感謝していますが、あなたも医者なのだからそのぐらいのことはわかるでしょ、と上から目線で言われるとついつい感謝の言葉を呑み込んでしまいます。

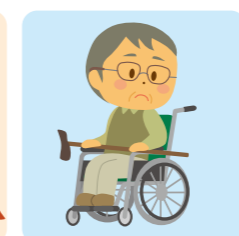


院長／板本 敏行

杖ホルダー付き車いすをご利用ください



落ちた時に拾いにくい



置き場に困る

車いすを利用する時に、杖をお持ちの方は杖の置き場に困り、落とした時は、拾うだけで一苦労です。当院では、杖ホルダーを設置している車いすをご用意しておりますので、杖をお持ちの方は、ご利用ください。



後ろに杖ホルダー